

III. 刊行報告書抄録

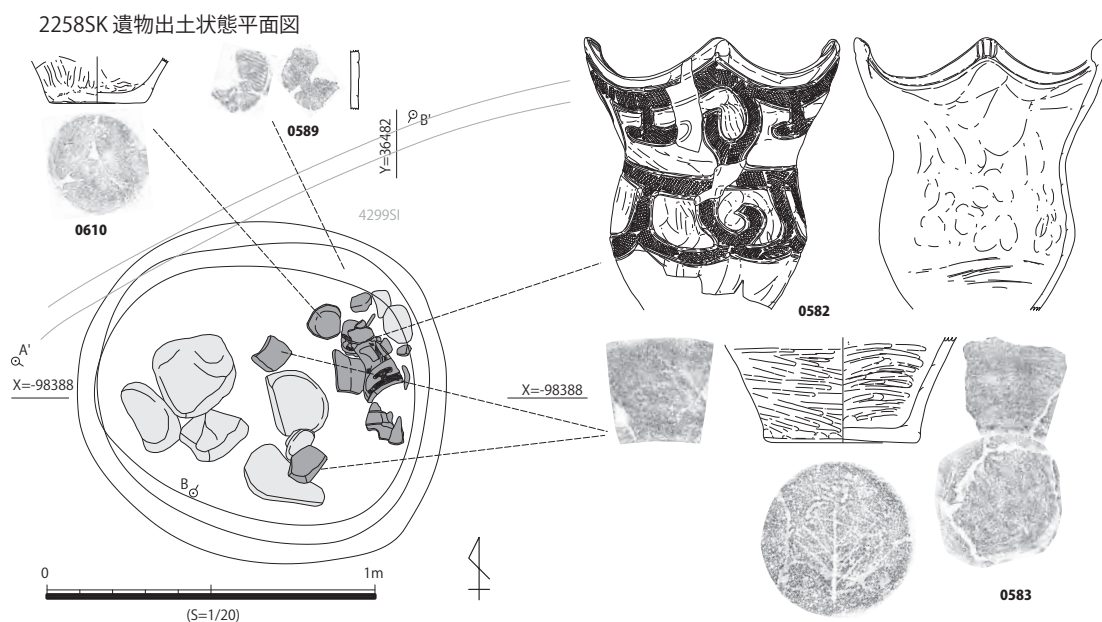
第215集 笹平遺跡

笹平遺跡は境川左岸の2段の段丘面に所在し、高い段丘面で縄文時代後期初頭～中葉を中心に竪穴建物跡30棟以上、炉跡、貯蔵穴などの袋状土坑、土器埋設遺構、集石遺構、柱穴列、大型石棒および立石を伴うピットなどが確認された。主要遺構群は段丘面の微高地に展開し、遺構は全体に掘り方が浅く上部はかなり削平されたものと推定される。低い段丘面では、縄文時代中期後半堆積層の上に縄文時代晩期の包含層が確認されたことから、本来は晩期の遺構群もあった可能性が考えられる。

竪穴建物跡は、石囲炉跡や石敷炉跡を伴うものが多く、土器が埋設された炉跡もある。竪穴建物跡には掘り方のみならず、炉跡の重複例もいくつか認められ、このことから構築に際しては同じ場所が繰り返し利用されたものと推測される。また、袋状土坑には縄文時代後期初頭の土器が集中する事例もある。

出土遺物は大量の縄文土器と石器などがあり、特に打製石斧や礫器などの大型の石器に対応する安山岩が多量に出土しており、それに由来する原石・石核・剥片が遺跡全体で見つかった。また、大型石棒のほか石棒石刀類・石冠・岩偶岩版類・独鈷石が多く、なかでも線刻礫を含む岩偶岩版類の出土量は県内で最多となる。

今回の笹平遺跡の調査成果は、集落のすべてを調査したことにより、巨岩を挟んで地形に沿って展開した縄文時代の集落のあり方を解明する良好な資料となった。(鈴木正貴)



笹平遺跡2258SKの遺物出土状況

報告書抄録

ふりがな		ささだいらいせき						
書 名		笹平遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター 調査報告書						
シリーズ番号		第215集						
編著者名		鈴木正貴、川添和暁、鬼頭剛、古澤明、株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ 株式会社第四紀地質研究所、藤根久、米田恭子、伊藤茂、佐藤正教、廣田正史、 山形秀樹、Zuar Lontatidze、三谷智広						
編集機関		財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2022年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
ささだいらいせき 笹平遺跡	あいちけん きたしたらくん 愛知県北設楽郡 したらちようこまつ 設楽町小松	23561	700169	35度 06分 45秒	137度 34分 01秒	2015.05.23～ 2015.12.11	6,930	設楽ダム
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
笹平遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 平安時代	竪穴建物跡、 掘立柱建物(柱穴列)、 袋状土坑、集石遺構、 土器棺墓、 土器埋納遺構、 土坑、ピットなど 土器棺墓、 土坑など 土坑など		縄文土器、土偶、 土製品、 石器、石製品など 弥生土器など 灰釉陶器など		岩偶岩版類の大量出土	
文書番号	発掘届出(26埋セ第148号 2015.3.31) 通知(27教生第55号 2015.4.13) 終了届・保管証・発見届(27埋セ第107号 2015.12.21) 鑑定結果通知(27教生第2573号 2016.1.8)							
要約	本遺跡は、境川左岸に形成された段丘面に立地する遺跡で、調査の結果、縄文代から平安時代にか けての遺構や江戸時代までの遺物が確認された。特に、縄文時代中期末から後期中葉までの時期には 竪穴建物跡26棟、掘立柱建物跡(柱穴列)3基、袋状土坑(貯蔵穴)や集石遺構、土器埋納遺構など多数 の遺構が確認された。今回の調査は現状で残された遺跡全体を発掘調査したこととなり、結果的に集落 全域の様相を詳細に明らかにできたことが貴重な成果といえる。							

報告書抄録

ふりがな	おおぐりいせき
書 名	大栗遺跡
副 書 名	
巻 次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 218 集
編著者名	樋上 昇・鬼頭 剛・川添和暁・早野浩二・鈴木恵介・田中 良ほか
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2022 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおぐり 大栗	あいちけんきたしたらぐん 愛知県北設楽郡 したらちようかわむき 設楽町川向	23561	700163	35 度 6 分 40 秒	137 度 33 分 52 秒	2015.7 └ 2015.9 2016.9 └ 2016.12	5,550	設楽ダム

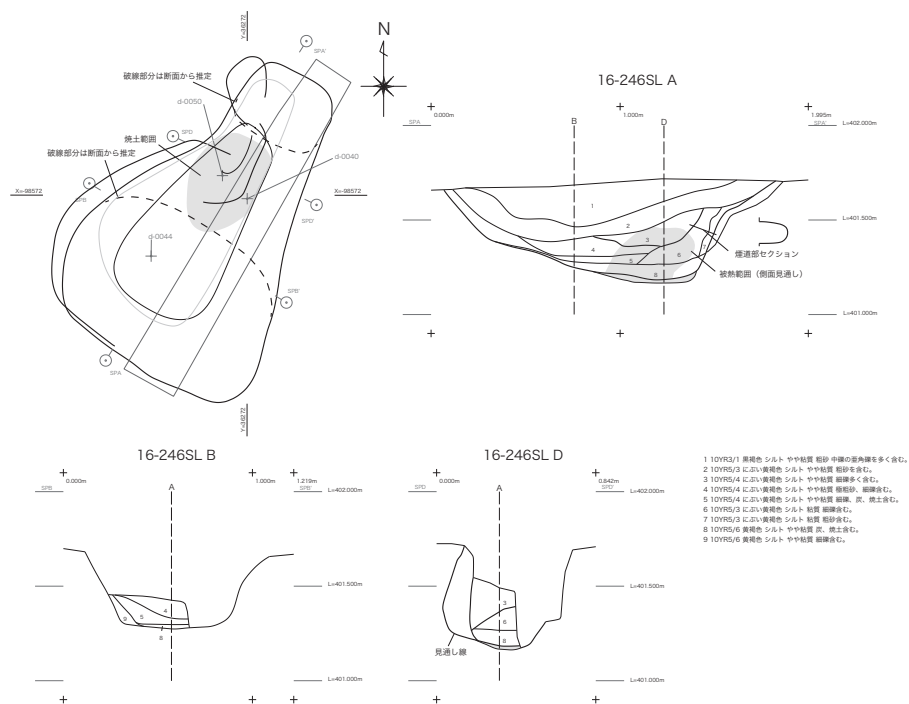
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大栗遺跡	集落跡	縄文時代早期	煙道付炉穴 3 基、 屋外炉 2 基、陥し穴 9 基	縄文土器、石器	煙道付炉穴の遺存 状況が極めて良好
	集落跡	縄文時代中期	竪穴建物 1 棟	縄文土器、石器	石囲炉を有する 竪穴建物
	集落跡	中世～近代	火葬施設 2 基、 柵列 3 基、土坑	陶磁器	土留めの可能性を 有する大型柵列

文書番号	発掘届出：埋文（27 埋セ第 147 号 / 28 埋セ第 51-1 号） 発掘届出：県教委（27 教生第 53 号 / 28 教生第 1508 号） 完了報告（27 埋セ第 81 号 / 27 埋セ第 85 号） 文化財認定（27 教生第 1910 号 / 28 教生第 3008 号）
------	---

要 約	奥三河山間部の戸神川左岸の傾斜地に立地する縄文時代早期から近代の集落跡。 縄文時代早期は煙道付炉穴と陥し穴、縄文時代中期は竪穴建物が認められる。 また、近世～近代には大型の柵列と石組の火葬施設が確認されている。
-----	---

第218集 大栗遺跡

奥三河山間部の戸神川左岸の傾斜地に立地する縄文時代早期から近代の集落跡。縄文時代早期には煙道付炉穴3基と陥し穴9基、縄文時代中期には竪穴建物跡1棟を確認している。また、近世～近代には居住地を設けるために大規模な造成が行なわれており、その際に築いたとみられる土留め用の柵列3基を確認した。その造成によってできた平場には火葬施設とみられる石組遺構がある。(樋上 昇)



246SL(1/40)

